

### 第3回 山梨サイクルネット構想（富士北麓地域）検討委員会 議事内容

日時：平成28年2月17日（水）14:00～16:00

場所：富士吉田合同庁舎2階大会議室

#### ■委員会出席者

21名出席（うち、代理10名）、6名欠席

#### ■議事内容

- ①第2回委員会のおさらい
- ②ピクトグラム等検討・修正結果について
- ③矢羽根等路面表示の色彩について
- ④事業展開の推進に向けた整備方針（案）
- ⑤「山梨サイクルネット構想（富士北麓地域）（案）」の策定結果
- ⑥今後の事業展開について



#### ■議事

##### 【事務局】

- 議事①、②について説明。  
（意見交換）

##### 【委員1】

- 案内誘導法定外標識について村ではデザイン戦略を行っており、統一感のある標識のデザインを目指しているため、本構想について担当者へ説明して頂きたい。

##### 【事務局回答】

- 担当者様へ説明させていただきます。

##### 【委員2】

- 注意喚起法定外標識はピクトのみではなく英語表記を入れた方が外国人観光客にとって分かりやすいと思うが。

##### 【事務局回答】

- なるべくコンパクトな法定外標識にしたいため、文字が少なくアイキャッチで外国の方に理解してもらう考えである。

##### 【委員長】

- 危険なシチュエーションに対して、国際的に標準的な英語表記がないので、最終的には「caution」しか入れない場合が多い。今回のように特殊な場合は難しいと思う。実際外国の方に見てもらい理解できるかどうか確認するなどして、注意喚起法定外標識は勘違いされない位置に設置することが重要であるため、現地に設置する際は注意して頂きたい。

**【委員長】**

- 案内誘導法定外標識に青色を入れる案については、路面表示のイメージと連動して案②の下線パターンを用いることでよいのではないかと。その際、下線の太さについて検討して頂き、現場で視認できるようにすれば良いと思う。

**【委員3】**

- 優先整備コースにおける案内誘導法定外標識(案)では、コース表示はA、B、Cとなっている。一方、既存のマップでは、コース1、2、5と表記しているためどのような整理とするのか。また、コースが重複する場合、どの様に対応するのか。

**【事務局回答】**

- 既存マップにある8コースのうち優先整備を行う3コース(コース1、2、5)をそれぞれA、B、Cと呼び替えた方が解りやすいと考えた。しかし、再度マップを作成した観光連盟と相談します。

**【委員長】**

- 優先整備3コースにおいては、分岐点は多くないため、基本となるコース1(最長コース)が明確に案内できれば、ショートカットとなるコース2やコース5では、最長コースとの分岐点で案内をすれば理解できるのではないかと。そのため、最長コース(コース1)を理解してもらうことが重要である。また、コースの表記を数字にするか、アルファベットにするかは検討して頂きたい。

**【事務局】**

- 議事③について説明。

(意見交換)

**【委員長】**

- 自動車に対し注意喚起を促すという観点から、色は提案した色彩で良いと思う。また、矢羽根の外側に白線を入れる形状ということなので、自動車に対しては十分目立つ形になると思う。また、実際に現場で確認して頂ければと思う。

**【事務局】**

- 議事④、⑤について説明。

(意見交換)

**【委員長】**

- 滋賀県では、市町村とNPOから構成された輪の国びわ湖推進協議会がレンタサイクル等の各種事業を展開している。また、「びわー」と呼ぶびわ湖を一周したサイクリストに認定証を1,000円で渡すという事業を展開しており、年間1,000人以上の利用がある。当地域における今後の事業展開において参考となるので、「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)」でもそのような仕組みを検討頂ければと思う。

今年度中に「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)」を公表する計画であり、ご意見等があれば事務局に連絡して頂きたい。

**【事務局】**

○議事⑥について説明。山梨サイクルネット構想（富士北麓地域）の実現に取り組み、国で検討されている「ナショナルサイクルルート」の認定を目指す。

（意見交換）

**【委員 4】**

●ナショナルサイクルルートの動向について知りたい。

**【事務局】**

○サイクリングコースのブランド力を高め、自転車利用者呼び込んでいくための施策として国が現在検討しているところであり、具体的な認定基準等はまだ示されていない。

**【委員長】**

●いろいろ現場で活躍している方の話を聞ける自転車観光の勉強会のような場を来年度設けることができれば、今後の取り組みの参考になると思う。

**【事務局】**

ハード・ソフト両面の施策を着実に進めるため、来年度も本委員会を開催する計画を伝え、委員会を終了した。